

シラバス

平成24年度

1年次

医療プロフェッ
ショナルリズム I

基礎医学生命科学
特論・研究コース

千葉大学医学部

目 次

| | |
|----------------------------|----|
| コンピテンシー達成レベル表 | 1 |
| 科目評価アンケートについて | 6 |
| 医療プロフェッショナリズム I | |
| 導入PBLチュートリアルユニット | 9 |
| チーム医療 I (IPE I) ユニット | 13 |
| 基礎医学生命科学特論・研究コース | |
| スカラーシップ・ベーシックプログラム | 21 |
| 6年一貫医学英語プログラム | 25 |
| 1年次スケジュール | 29 |

コンピテンシー達成レベル表

| レベル(達成度) | Advanced | Applied | Basic | | | |
|--|------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|-----------------------|----------------------|-----------|
| I. 倫理観とプロフェッショナリズム | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に | A | B | C | D | E | F |
| 患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するための態度、倫理感を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性和方法を理解している。 | 診療の場で医師としての態度・価値感を示せることが単位認定の要件である | 医師としての態度・価値感を模範的に示せることが単位認定の要件である | 基盤となる態度・価値観の修得が単位認定の要件である | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である | 修得の機会があるが、単位認定に関係ない | 修得の機会がない |
| II. 医学とそれに関連する領域の知識 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に | A | B | | D | E | F |
| 基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解している。 | 実践の場で問題解決に応用できることが単位認定の要件である | 応用できる知識の修得が単位認定の要件である | | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である | 修得する機会があるが、単位認定に関係ない | 修得の機会がない |
| III 医療の実践 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に | A | B | C | D | E | F |
| 患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い健康問題の診断と治療を原則に従って計画できる。 | 診療の一部として実践できることが単位認定の要件である | 模擬診療を実施できることが単位認定の要件である | 基盤となる態度、スキルの修得が単位認定の要件である | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である | 経験する機会があるが、単位認定に関係ない | 経験する機会がない |
| IV コミュニケーション | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に | A | B | C | D | E | F |
| 思いやりがある効果的なコミュニケーションを行い、他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、医療を実践することができる。医学、医療における文書を適切に作成、取り扱い、責任ある情報交換と記録を行うことができる。 | 診療の一部として実践することが単位認定の要件である | 模擬診療を実施できることが単位認定の要件である | 基盤となる態度、スキルの修得が単位認定の要件である | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である | 経験する機会があるが、単位認定に関係ない | 経験する機会がない |
| V. 医学、医療、保健、社会への貢献 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に | A | B | | D | E | F |
| 医学、医療に関する保険、保健制度、機関、行政の規則等に基づいた業務と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解する。 | 実践できることが単位認定の要件である | 理解と実施計画立案が単位認定の要件である | | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である | 経験する機会があるが、単位認定に関係ない | 経験する機会がない |
| VI. 科学的探究 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に | A | B | C | D | E | F |
| 基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考と研究計画立案を倫理原則に従って行うことができる。 | 実践できることが単位認定の要件である | 研究計画立案が単位認定の要件である | 計画された研究の見学、参加、技術の修得が単位認定の要件である | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である | 経験する機会があるが、単位認定に関係ない | 経験する機会がない |

| 学年 | | 1 | | | | |
|---|---|----------------------------|---|--|---|-----|
| コース・ユニット名 | 医療プロ フェッショ ナリズムI | 医療プロ フェッショ ナリズムI | 基礎専門 科目 (数学, 物 理学, 化 学実験な ど) | 基礎医学 生命科学 特論・研究 | 普遍教育 科目 (英語, 情 報リテラ シー, 教 養科目な ど) | |
| | チ ュ ー ト リ ア ル 入 | チ ー ム 医 療 I | | ベ ー シ ッ ク ・ ス カ ラ ー シ ッ プ ・ | | |
| I. 倫理観とプロフェッショナリズム | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム (態度、考え方、倫理感など)を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯 にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解している。 | | | | | | |
| <医師としての考え、態度> | | | | | | |
| 1 | 人間の尊厳を尊重する。 | C | C | F | E | C/D |
| 2 | 法的責任・規範を遵守する。 | C | C | F | E | C/D |
| 3 | 患者に対して利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。 | C | C | F | F | C/D |
| 4 | 患者、患者家族の心理・社会的要因と異文化、社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。 | C | C | F | F | C/D |
| 5 | 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて評価できる。 | C | E | F | E | C/D |
| 6 | 常に自分の知識、技能、行動に責任を持って患者を診療できる。 | C | C | F | F | C/D |
| 7 | 医学、医療の発展に貢献することの必要性を理解する。 | E | C | F | E | C/D |
| <チーム> | | | | | | |
| 8 | 医療・研究チームで協同して活動し、チームリーダーとしての役割を果たすことができる。 | C | E | F | F | C/D |
| 9 | 医療チームの一員として効果的、相補的な業務を行い、医療安全に務めることができる。 | C | C | F | F | C/D |
| <自己啓発> | | | | | | |
| 10 | 自己の目標を設定できる。 | C | D | E | E | C/D |
| 11 | 自己を適切に評価して知識と技能の能力の限界を知り、それを乗り越える対処方法を見つけることができる。 | C | C | E | E | C/D |
| 12 | 生涯学習により常に自己の向上を図る必要性と方法を理解する。 | C | D | E | E | C/D |
| 13 | 医療ニーズに常に対応できるように自己を管理できる。 | C | D | F | F | C/D |
| 14 | 学習と生活の優先順位を決定できる。 | C | D | E | E | C/D |
| 15 | 自らのキャリアをデザインし、達成へ向けて学習を継続できる。 | C | E | E | E | C/D |

| 学年 | | 1 | | | | |
|---|--|---|--|---|--|---|
| コース・ユニット名 | | 医療プロ フェッショ ナリズムI チ ユ ー ト リ ア ル 入 導 | 医療プロ フェッショ ナリズムI チ ー ム 医 療 I | 基礎専門 科目 (数学, 物 理学, 化 学実験な ど) | 基礎医学 生命科学 特論・研究 ベ ー シ ッ ク ス カ ラ ー シ ッ プ ・ | 普遍教育 科目 (英語, 情 報リテラ シー, 教 養科目な ど) |
| II. 医学とそれに関連する領域の知識 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解している。 以下の知識を有し、実践の場で応用できる。 | | | | | | |
| 1 | 人体の正常な構造と機能 | E | E | D | E | D |
| 2 | 人体の発達、成長、加齢、死 | E | E | D | E | D |
| 3 | 人体の心理、行動 | E | E | F | E | D |
| 4 | 病因、構造と機能の異常、疾病の自然経過と予防 | E | E | F | E | D |
| 5 | 薬理、治療 | E | E | D | E | D |
| 6 | 疫学、人口統計、環境 | E | E | D | E | D |
| 7 | 医療の安全性と危機管理 | E | D | F | E | D |
| 8 | 医学医療に影響を及ぼす文化、社会的要因 | E | D | F | E | D |
| III. 医療の実践 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い健康問題の診断と治療を原則に従って計画できる。 | | | | | | |
| 1 | 心理、社会的背景を含む患者の主要な病歴を正確に聴取できる。 | E | E | F | F | C/D |
| 2 | 成人及び小児の身体診察と基本的臨床手技を適切に実施することができる（精神、神経学的、生殖器、整形外科的診察も含む）。 | E | E | F | F | C/D |
| 3 | 鑑別診断、プロブレムリスト、診療録を作成できる。 | E | E | F | F | C/D |
| 4 | 頻度の高い疾患の診断と治療に必要な臨床検査、検体検査、画像診断、病理診断を選択し、結果を解釈できる。 | E | E | D | F | C/D |
| 5 | 頻度の高い疾患の診断と治療計画を患者の心理・社会的因子、文化的背景、疫学、EBMを考慮して立てられる。 | E | E | D | F | C/D |
| 6 | 医療を実施する上で有効な患者—医師関係を構築できる。 | E | E | F | F | C/D |
| 7 | 患者管理の基本を実施できる。 | E | E | F | F | C/D |
| 8 | 患者の安全性を確保した医療を実践できる。 | F | E | F | F | C/D |

| 学年 | | 1 | | | | |
|--|---|--|--|---|--|---|
| コース・ユニット名 | | 医療プロ フェッショ ナリズムI チ 導 ュー トリア アル 入 | 医療プロ フェッショ ナリズムI チ ーム 医療 I | 基礎専門 科目 (数学, 物 理学, 化 学実験な ど) | 基礎医学 生命科学 特論・研究 ベ ー シ ック ス カ ラ ー シ ップ ・ | 普遍教育 科目 (英語, 情 報リテラ シー, 教 養科目な ど) |
| 9 | リハビリテーション, 地域医療, 救急医療, 集中治療に参加できる。 | F | C | F | F | C/D |
| 10 | 緩和医療, 終末期医療, 代替医療の概要を理解している。 | E | E | F | F | C/D |
| 11 | 患者教育の概要を理解している。 | E | E | F | F | C/D |
| 12 | 医療の不確実性を認識している。 | E | E | F | F | C/D |
| 13 | 診療の優先順位を決定できる。 | E | E | F | F | C/D |
| 14 | 電子化された医学・医療に関する情報を利用できる。 | C | E | E | D | C/D |
| IV. コミュニケーション技能 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は, 卒業時に 思いやりがある効果的なコミュニケーションを行い, 他者を理解し, お互いの立場を尊重した人間関係を構築して, 医療を実践することができる。医学, 医療における文書を適切に作成, 取り扱い, 責任ある情報交換と記録を行うことができる。 | | | | | | |
| 1 | 有効なコミュニケーションの一般原則を実践できる。 | C | C | F | E | C/D |
| 2 | 患者, 患者家族, 医療チームのメンバーと, 個人, 文化, 社会的背景を踏まえて傾聴, 共感, 理解, 支持的態度を示すコミュニケーションを実施できる。 | C | C | F | E | C/D |
| 3 | コミュニケーションにより, 患者, 患者家族, 医療チームのメンバーとの信頼関係を築き, 情報収集, 説明と同意, 教育など医療の基本を実践できる。 | C | C | F | E | C/D |
| 4 | 診療情報, 科学論文などの文書を規定に従って適切に作成, 取り扱い, 情報提供できる。 | C | E | F | E | C/D |
| V. 医学, 医療, 保健, 社会への貢献 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は, 卒業時に 医学, 医療に関する保険, 保健制度, 機関, 行政の規則等に基づいた業務と医療の実践, 研究, 開発を通して社会に貢献できることを理解する。 | | | | | | |
| 1 | 各種保険制度など医療制度を理解する。 | E | E | F | F | D |
| 2 | 患者の診療, 健康の維持, 増進のために各種医療専門職の有用性を理解する。 | E | D | F | F | D |
| 3 | 地域の保健, 福祉, 介護施設の活用が患者個人と医療資源の適正な利用に必要であることを理解する。 | E | E | F | F | D |
| 4 | 患者と家族の健康の維持, 増進のために施設を適切に選択できる。 | E | E | F | F | D |
| 5 | 地域の健康・福祉に関する問題を評価でき, 疾病予防プランを立案できる。 | E | E | F | F | D |

| 学年 | | 1 | | | | |
|---|--|---|--|---|--|---|
| コース・ユニット名 | | 医療プロ フェッショ ナリズムI チ 導 ユ ー ト リ ア ル 入 | 医療プロ フェッショ ナリズムI チ ー ム 医 療 I | 基礎専門 科目 (数学, 物 理学, 化 学実験な ど) | 基礎医学 生命科学 特論・研究 ベ ー シ ッ ク ス カ ラ ー シ ッ プ ・ | 普遍教育 科目 (英語, 情 報リテラ シー, 教 養科目な ど) |
| 6 | 医師として地域医療に関わることの必要性を理解する。 | E | E | F | F | D |
| 7 | 医学・医療の研究, 開発が社会に貢献することを理解する。 | E | E | E | E | D |
| VI. 科学的探究 | | | | | | |
| 千葉大学医学部学生は, 卒業時に 基礎, 臨床, 社会医学領域での研究の意義を理解し, 科学的情報の評価, 批判的思考, 新しい情報を生み出すための論理的思考と研究計画立案を倫理原則に従って行うことができる。 | | | | | | |
| 1 | 未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し, 仮説を立て, それを解決するための方法と資源を見いだすことができる。 | E | E | E | C | C/D |
| 2 | 臨床や科学の興味ある領域での研究を実施する。 | E | F | E | C | C/D |
| 3 | 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解する。 | E | F | E | C | C/D |
| 4 | 実験室, 動物実験, 患者に関する研究の倫理的事項を理解する。 | E | F | E | C | C/D |
| 5 | 科学的研究で明らかになった新しい知見を明確に説明できる。 | E | E | E | C | C/D |

科目評価アンケートについて

各科目の授業終了後にムードルを利用して科目評価アンケートをして下さい。これは、来年度の当該科目の改善・発展のための資料となりますので、必ず記入・提出して下さい。このような評価を通してカリキュラムの改善に貢献することは、卒業コンピテンシー（I. 倫理観とプロフェッショナリズム, 7. 医学, 医療の発展に貢献することの必要性を理解する。）に相当しますので、学習の一部になっていることを銘記して下さい。

医療プロフェッショナリズム I

I 科目(コース)名 医療プロフェッショナリズム I

II コースの概要
並びに学習目標 患者・家族，医療チーム，社会との関係における医師のプロフェッショナリズムについて理解し，実践していくための入学から卒業時まで継続するプログラムの最初の段階である。少人数によるグループ学習，他学部学生との協働による学内・外施設での体験・振り返りを通してプロフェッショナリズムの構成要素である共感的コミュニケーション，自律的学習，責任ある行動を修得することを目標とする。

III 科目(コース)責任者 田邊政裕

IV 対象学年 1年

| V 構成ユニット | ユニット | ユニット責任者 | 時期 |
|----------|-----------------|---------|----|
| | 導入PBLチュートリアル | 田邊政裕 | 前期 |
| | チーム医療 I (IPE I) | 朝比奈 真由美 | 前期 |

導入PBLチュートリアルユニット

- 1) ユニット名 導入PBLチュートリアルユニット
- 2) ユニット責任者 田邊政裕
- 3) ユニット期間 前期
- 4) ユニット担当教員一覧…医学部moodleを参照してください。
- 5) ユニットの概要

様々な事象について少人数によるグループ学習を通して、自らを振り返り、医師になるための自律的学習能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を身に付ける。

6) ユニットのゴール、コンピテンスと達成レベル

・ゴール

医師になるために必要なプロフェッショナリズム、コミュニケーション能力を身に付ける。

・コンピテンス達成レベル表

| ユニットコンピテンス | | 卒業コンピテンスに対する達成レベル (導入チュートリアル) |
|--|---|--|
| I. 倫理観とプロフェッショナリズム | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 患者、患者家族、医療チームのメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム（態度、考え方、倫理感など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解している。 | | |
| <医師としての考え、態度> | | |
| 1 | 人間の尊厳を尊重する。 1. メンバーを尊重する。 | C 基盤となる態度・価値観の修得が 単位認定の要件である (Basic) |
| 2 | 法的責任・規範を遵守する。 2. ルールを守る。 | |
| 3 | 患者、家族に対して利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。 3. メンバー、チュータに対して利他的、共感的、誠実、正直に対応できる。 | |
| 4 | 患者、患者家族の心理・社会的要因と異文化、社会背景に関心を払い、その立場を尊重する。 4. メンバーの背景に関心を払い、その立場を尊重する。 | |
| 6 | 常に自分の知識、技能、行動に責任を持って患者を診療できる。 5. 責任ある行動がとれる。 | |
| <チーム> | | |
| 8 | 医療・研究チームで協同して活動し、チームリーダーとしての役割を果たすことができる。 6. チームリーダーの役割を担える。 | C 基盤となる態度・価値観の修得が 単位認定の要件である (Basic) |
| 9 | 医療チームの一員として効果的、相補的な業務を行い、医療安全に務めることができる。 7. チームの一員として有効な活動ができる。 | |
| <自己啓発> | | |
| 10 | 自己の目標を設定できる。 8. 学習目標を設定できる。 | C 基盤となる態度・価値観の修得が 単位認定の要件である (Basic) |

| ユニットコンピテンス | | 卒業コンピテンスに対する達成レベル (導入チュートリアル) |
|---|---|--|
| 11 | 自己を適切に評価して知識と技能の能力の限界を知り、それを乗り越える対処方法を見つけることができる。 9. 自己を適切に評価できる。 | C 基盤となる態度・価値観の修得が単位認定の要件である (Basic) |
| 12 | 生涯学習により常に自己の向上を図る必要性と方法を理解する。 10. 自己学習を実践できる。 | |
| 13 | 医療ニーズに常に対応できるように自己を管理できる。 11. 自己管理できる。 | |
| 14 | 学習と生活の優先順位を決定できる。 12. 学習と生活の優先順位を決定できる。 | |
| 15 | 自らのキャリアをデザインし、達成へ向けて学習を継続できる。 10. 自己学習を実践できる。 | |
| IV. コミュニケーション技能 | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 思いやりがある効果的なコミュニケーションを行い、他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、医療を実践することができる。医学、医療における文書を適切に作成、取り扱い、責任ある情報交換と記録を行うことができる。 | | |
| 1 | 有効なコミュニケーションの一般原則を実践できる。 13) チームメンバーとコミュニケーションが取れる。 | C 基盤となる態度、スキルの修得が単位認定の要件である (Basic) |
| 2 | 患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを実施できる。 14) 患者・チームメンバーと傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを実施できる。 | |
| 3 | コミュニケーションにより、患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報収集、説明と同意、教育など医療の基本を実践できる。 15) 患者・チームメンバーと信頼関係を構築できる。 | |
| 4 | 診療情報、科学論文などの文書を規定に従って適切に作成、取り扱い、情報提供できる。 16) レポートを作成できる | |

7) 授業スケジュールと対応するコンピテンス・レベル (Ap : Applied, Ba : Basic)

P.11参照

8) 評価法

チュータによる観察記録 (40%), レポート (30%), ポートフォリオ (20%), 発表 (各グループで取組んだテーマについてまとめ、発表する) (10%)

プロフェッショナリズムに反する行為があった場合、その内容、程度により評価が減点される。

チーム医療 I (IPE I) ユニット

- 1) ユニット名 チーム医療 I (IPE I)
- 2) ユニット責任者 朝比奈 真由美
- 3) ユニット期間 前期
- 4) ユニット担当教員一覧…医学部 moodle を参照してください。
- 5) ユニットの概要

医学, 看護, 薬学部の学生がともに互いに対等なグループの一員として学習することにより, 将来のチーム医療の実践に必要な能力を修得する Interprofessional Education (IPE) の第一ステップの授業である。

6) ユニットのゴール, コンピテンスと達成レベル

・ゴール

患者・利用者を理解し, 患者・利用者中心のチーム医療を推進するために必要な基盤的实践能力を身に付ける。

・コンピテンス達成レベル表

| ユニットコンピテンス | | 卒業コンピテンスに対する達成レベル (チーム医療 I) | |
|---|---|--------------------------------|---------------------------------------|
| I. 倫理観とプロフェッショナリズム | | | |
| 千葉大学医学部学生は, 卒業時に 患者, 患者家族, 医療チームメンバーを尊重し, 責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム (態度, 考え方, 倫理感など) を有して行動することができる。そのために, 医師としての自己を評価し, 生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解している。 | | | |
| <医師としての考え, 態度> | | | |
| 1 | 人間の尊厳を尊重する。 1) 患者・チームメンバーを尊重する。 | C | 基盤となる態度・価値観の修得が 単位認定の要件である (Basic) |
| 2 | 法的責任・規範を遵守する。 2) ルールを守る。 | C | |
| 3 | 患者, 家族に対して利他的, 共感的, 誠実, 正直に対応できる。 3) 患者・チームメンバー, 教員に対して利他的, 共感的, 誠実, 正直に対応できる。 | C | |
| 4 | 患者, 患者家族の心理・社会的要因と異文化, 社会背景に関心を払い, その立場を尊重する。 4) 患者・チームメンバーの背景に関心を払い, その立場を尊重する。 | C | |
| 6 | 常に自分の知識, 技能, 行動に責任を持って患者を診療できる。 5) 責任ある行動がとれる。 | C | |
| <チーム> | | | |
| 9 | 医療チームの一員として効果的, 相補的な業務を行い, 医療安全に務めることができる。 6) チームの一員として有効な活動ができる。 | C | 基盤となる態度・価値観の修得が 単位認定の要件である (Basic) |
| <自己啓発> | | | |
| 10 | 自己の目標を設定できる。 7) 学生としての自己目標を設定できる。 | C | 基盤となる態度・価値観の修得が 単位認定の要件である (Basic) |

| ユニットコンピテンス | | 卒業コンピテンスに対する達成レベル (チーム医療Ⅰ) | |
|---|---|-------------------------------|-----------------------------------|
| 11 | 自己を適切に評価して知識と技能の能力の限界を知り、それを乗り越える対処方法を見つけることができる。 8) 自己評価ができる。 | C | 基盤となる態度・価値観の修得が単位認定の要件である (Basic) |
| 13 | 医療ニーズに常に対応できるように自己を管理できる。 9) 学生として自己を管理できる。 | C | |
| 14 | 学習と生活の優先順位を決定できる。 10) 学生として学習と生活の優先順位を決定できる。 | C | |
| Ⅱ. 医学とそれに関連する領域の知識 | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解している。 | | | |
| 7 | 医療の安全性と危機管理 11) 医療現場の状況を理解する。 | D | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である (Basic) |
| Ⅲ. 医療の実践 | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い健康問題の診断と治療を原則に従って計画できる。 | | | |
| 9 | リハビリテーション、地域医療、救急医療、集中治療に参加できる。 12) リハビリテーション、地域医療、救急医療、集中治療を理解する。 | D | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である (Basic) |
| Ⅳ. コミュニケーション技能 | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 思いやりがある効果的なコミュニケーションを行い、他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、医療を実践することができる。医学、医療における文書を適切に作成、取り扱い、責任ある情報交換と記録を行うことができる。 | | | |
| 1 | 有効なコミュニケーションの一般原則を実践できる。 13) チームメンバーとコミュニケーションが取れる。 | C | 基盤となる態度、スキルの修得が単位認定の要件である (Basic) |
| 2 | 患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを実施できる。 14) 患者・チームメンバーと傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを実施できる。 | C | |
| 3 | コミュニケーションにより、患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報収集、説明と同意、教育など医療の基本を実践できる。 15) 患者・チームメンバーと信頼関係を構築できる。 | C | |
| 4 | 診療情報、科学論文などの文書を規定に従って適切に作成、取り扱い、情報提供できる。 16) レポートを作成できる。 | C | |

| ユニットコンピテンス | | 卒業コンピテンスに対する達成レベル (チーム医療Ⅰ) | |
|---|--|-------------------------------|-------------------------------|
| V. 医学, 医療, 保健, 社会への貢献 | | | |
| 千葉大学医学部学生は, 卒業時に 医学, 医療に関する保険, 保健制度, 機関, 行政の規則等に基づいた業務と医療の実践, 研究, 開発を通して 社会に貢献できることを理解する。 | | | |
| 2 | 患者の診療, 健康の維持, 増進のために各種医療専門職の有用性を理解する。 17) 各種医療専門職を理解する。 | D | 基盤となる知識の修得が単位認定の要件である (Basic) |

7) 授業スケジュールと対応するコンピテンス・レベル (Ad : Advanced, Ap : Applied, Ba : Basic)

P.16~17参照

8) 評価法

グループ (ユニット) 討議への参加 (観察記録) (20%), 自己評価表・グループ (ユニット) 評価表の提出状況および授業の記録・リフレクションシートの内容 (30%), ユニット発表の内容 (20%), 最終レポートの内容 (30%)

プロフェッショナリズムに反する行為のあった場合, その内容, 程度により評価が減点される。

基礎医学生命科学特論・研究コース

- I 科目(コース)名 基礎医学生命科学特論・研究
- II コースの概要
並びに学習目標 医学の基盤となる生命科学の方法論を十分に修得し、その後の臨床医学の学習および独創的な発想による独自の専門領域研究を開拓するために、基礎医学系および臨床医学系各種研究領域の先端的または応用的研究に触れると共に、それらの実験科学を自ら体得する事によって、生命科学における科学的思考法を身につけ学問体系構築の道筋を理解する。
- III 科目(コース)責任者 白 澤 浩
- IV 対 象 学 年 1年次～6年次
- V 構 成 ユ ニ ッ ト
- | ユニット | ユニット責任者 | 時期 |
|--------------|---------|----|
| スカラーシッププログラム | 白 澤 浩 | 通年 |
| | 坂 本 明 美 | |
| | 中 山 俊 憲 | |

スカラシップ・ベーシックプログラム

- 1) ユニット名 スカラシッププログラム
- 2) ユニット責任者 白澤 浩, 坂本 明美, 中山 俊憲
- 3) ユニット担当教員一覧…医学部moodleを参照すること。
- 4) ユニットの概要

本ユニットでは、医学、医療の発展のために必要となる、さらに高い学識的な思考と研究開発のための知識、技術、倫理観を、各研究室の研究・抄読会・カンファレンス等への参加（以下、研究への参加）を経験する事により修得する事を目指します。希望する研究室の研究およびBCRC（ちばBasic & Clinical Research Conference）に参加するベーシック（1, 2年次対象, 必修）、3年次の講義「探索的先端治療学」を含むアプライド（必修）、研究発表および論文作成を行うアドバンスト（選択）からなります。

ガイダンス後、研究室を選択し、その指導教員（アカデミックメンター）の指示に従って、研究・抄読会・カンファレンス等に参加します。研究室の選択は変更も可能ですが、研究内容の継続性から原則として半年以上ひとつの研究室に所属することが求められます。

研究への参加に関する指導・相談はメンターがあたります。研究室の変更、中断の相談にはユニット責任者があたります。

アドバンストは、5～6年次を目安としていますが、各自の計画により全年次を通して自由に履修して構いません。

5) ユニットのゴール、コンピテンスと達成レベル

・ゴール

基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考ができる。新しい情報を生み出すための論理的思考を倫理原則に従って行うことができる。

・コンピテンスと達成レベル

| ユニットコンピテンス | | 卒業コンピテンスに対する達成レベル (スカラシップ・ベーシック) |
|---|--|-------------------------------------|
| I. 倫理観とプロフェッショナリズム | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム（態度、考え方、倫理感など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解している。 | | |
| 6 | 常に自分の知識、技能、行動に責任を持って患者を診療できる。 1) チームの一員として他の研究員とコミュニケーションをとり、責任ある行動ができる。 | C |
| 7 | 医学、医療の発展に貢献することの必要性を理解する。 2) 医学・医療の研究が社会の発展に貢献することを理解し、抄読会、カンファレンス等に積極的に参加できる。 | E |
| 9 | 医療チームの一員として効果的、相補的な業務を行い、医療安全に務めることができる。 1) チームの一員として他の研究員とコミュニケーションをとり、責任ある行動ができる。 | E |
| | | 基盤となる態度・スキルの修得が 単位認定の要件である |

| ユニットコンピテンス | | 卒業コンピテンスに対する達成レベル (スカラシップ・ベーシック) | |
|---|---|-------------------------------------|-----------------------------------|
| II. 医学とそれに関連する領域の知識 | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解している。 | | | |
| 14 | 電子化された医学・医療に関する情報を利用できる。 3) 臨床的あるいは科学的論文の精読ができる。 | C | 基盤となる態度・スキルの修得が 単位認定の要件である |
| IV. コミュニケーション技能 | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 思いやりがある効果的なコミュニケーションを行い、他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、医療を実践することができる。医学、医療における文書を適切に作成、取り扱い、責任ある情報交換と記録を行うことができる。 | | | |
| 4 | 診療情報、科学論文などの文書を規定に従って適切に作成、取り扱い、 情報提供できる。 3) 臨床的あるいは科学的論文の精読ができる。 | E | 態度・価値観の修得の機会がある が、単位認定に関係ない |
| VI. 科学的探究 | | | |
| 千葉大学医学部学生は、卒業時に 基礎、臨床、社会医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考と研究計画立案を倫理原則に従って行うことができる。 | | | |
| 3 | 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解する。 4) 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。 | C | 教員により計画された研究を実施、 見学が単位認定の要件である |
| 4 | 実験室、動物実験、患者に関する研究の倫理的事項を理解する。 5) 実験室、動物実験、患者に関する研究の倫理的事項を説明できる。 | C | |
| 5 | 科学的研究で明らかになった新しい知見を明確に説明できる。 | C | |

6) 評価法

ポートフォリオ評価 (60%)、パフォーマンス評価 (出席を含む) (40%)

抄読会、カンファレンスへの参加等により作成したポートフォリオを評価する。

評価シート

| コンピテンス* | 知識 | 理解 | 提示** | 実践結果の提示 |
|---------|--|---|---|-----------------------------------|
| 研究の意義 | <input type="checkbox"/> Basic (10点)*** | <input type="checkbox"/> Applied | <input type="checkbox"/> Applied | <input type="checkbox"/> Advanced |
| 結果の意義 | <input type="checkbox"/> Basic (10点) | <input type="checkbox"/> Applied | <input type="checkbox"/> Applied | <input type="checkbox"/> Advanced |
| 材料・方法 | <input type="checkbox"/> Basic (10点) | <input type="checkbox"/> Applied | <input type="checkbox"/> Applied | <input type="checkbox"/> Advanced |
| 背景・目的 | <input type="checkbox"/> Basic (10点) | <input type="checkbox"/> Basic (10点) | <input type="checkbox"/> Basic (10点) | <input type="checkbox"/> Advanced |

*該当する項目全てのコンピテンスが修得された状態の評価を「可」とする。

** Basicでは、レポートもしくはプレゼンテーション。Appliedでは、プレゼンテーション。パフォーマンス評価に用いる。

*** () 内の点数を評価の目安とする。

7) 実施概要と開設教室紹介

実施概要

- 1) 開設教室の抄読会，カンファレンスに参加し，自らも論文の精読，検索を行う。
- 2) 1年次～4年次の間に，各自が興味を持ち遂行したいテーマを提供する研究領域の教員と面談し，許可を得る。
- 3) 配属先の定員を越える希望者がある場合にはGPA等により選抜を行う。
- 4) 適切な範囲内で，研究を行うテーマを変更することが可能であり，複数の領域の教員と相談しながら研究を行っても良い。
- 5) 抄読会・カンファレンス・セミナー・学会等への参加（15時間／年以上）。
- 6) メンターが与えた医学論文の精読（1編以上）。精読した医学論文の研究背景の理解をメンターに提示（レポートもしくはプレゼンテーション）し，パフォーマンス評価を行う。（1回以上／年）
- 7) BCRCへの参加。

開設教室紹介

後日，配付予定。

2012年度6年一貫医学英語プログラム

目 標：グローバル化対応能力（医学英語能力：主にリスニング、スピーキング、スピード・リーディング、ライティング）を修得する。

方 略：全学生を対象とする6年一貫で順次性のある医学英語能力修得プログラム

責 任 者：田 邊 政 裕

1 年 次

普遍教育（教養教育）で一般英語（4～6単位、必修）、スカラシップ・ベーシックプログラムの一環として「医学英語論文の読み方Ⅰ」を2コマ（スカラシップ・ベーシック2単位、必修）。

■「医学英語論文の読み方Ⅰ」（スカラシップ・ベーシック2単位、必修）

担当教員：押味貴之

- 目 標**：① 医学英語論文の種類を区別することができる
② 医学英語論文の基本構造を理解できる
③ 医学英語論文の抄録を批判的に読むことができる

方 略：（6月13日（水）Ⅰ、Ⅱ時限…医学部第一講義室）：

- ① 講義
② 演習（SGD, Small group discussion）

評 価：スカラシップ・プログラム・ベーシックにおける各教室での学生のパフォーマンス評価（グローバル・レーティング）

2 年 次

アルクネットアカデミーのeラーニングコースの専門連携英語（12コマ、1単位、必修）の授業があるので、リスニング、スピーキングは補完的に行う（年度末にまとめの授業と評価を2コマで実施する……医学英語として必修）。

スカラシップ・ベーシックプログラムの一環として「医学英語論文の読み方Ⅱ」を2コマ（スカラシップ・ベーシック2単位、必修）。

基礎医学の授業を、英語教科書を利用して実施できるような準備教育（身体の名称と診療科名を中心に、各診療科での基本的な医学英語の習得……1コマ、スカラシップ・ベーシック2単位必修）。

■「医学英語教科書を読む」（スカラシップ・ベーシック2単位、必修）

担当教員：押味貴之

- 目 標**：① 医学用語の構造を理解できる
② スキミングを用いた読解ができる

方 略：（4月11日（水）Ⅲ時限…第一講義室）：

- ① 講義
② 演習（SGD）

評 価：(2月6日(水)Ⅲ時限…組織実習室)：試験(医学英語教科書解釈)

■「医学英語(まとめ)」(専門連携英語1単位, 必修)

担当教員：押味貴之, E.H.Jego

目 標：医学英語のリスニングトレーニング方法を理解し, 実践できる

方略・評価：(7月11日(水)Ⅰ, Ⅱ時限…第一講義室)：リスニング・テスト

■「医学英語論文の読み方Ⅱ」(スカラシップ・ベーシック2単位, 必修)

担当教員：押味貴之

目 標：① 医学英語論文の方法と結果を読解できる

② 統計で用いられる基本語彙を理解できる

方 略：(7月11日(水)Ⅲ, Ⅳ時限…第一講義室)：

① 講義

② 演習(SGD)

評 価：スカラシップ・プログラム・ベーシックにおける各教室での学生のパフォーマンス評価(グローバル・レーティング)

3 年 次

基礎医学授業は英語教科書で予習することを前提に授業を運営する。基礎・臨床医学の授業とリンクした医学用語の習得(スカラシップ・アプライドプログラムの一環として「医学英語論文の読み方Ⅲ」を2コマ……スカラシップ・アプライド4.5単位, 必修)。

■「医学英語論文の読み方Ⅲ」(スカラシップ・アプライド4.5単位, 必修)

担当教員：押味貴之

目 標：① 医学英語論文を診断・治療に応用することができる

② 医学英語論文の概要を口頭で報告することができる

方 略：(7月18日(水)Ⅲ, Ⅳ時限…第二講義室)：

① 講義

② 演習(SGD)

評 価：(1月23日(水)Ⅰ, Ⅱ時限…第一講義室, 第二講義室及び組織実習室)：

スカラシップ・プログラム・アプライドの一環としての試験(医学英語論文の概要を1～3名で英語で口頭発表*し, 質疑に回答する)

*口頭発表：各研究室, 診療科で抄読した医学英語論文の背景, 方法・結果, 考察を1～3名(できるだけ3名1組になるようにグループを組む)で分担して英語でプレゼンテーションし(1名あたり3分), その後英語で質疑に回答する(5分)。3室に分かれて教員が1名ずつ担当し, プレゼンテーションを進行する

担当教員：押味貴之, 他2名

4 年 次

臨床医学授業は英語教科書で予習することを前提に授業を運営する。模擬患者に対する英語での医療面接，症例プレゼンテーション，診療録作成演習（2コマ，臨床医学総論の一部，必修）。

■「臨床入門（メディカル・インタビュー）」（臨床医学総論6単位，必修）

担当教員：押味貴之，E.H.Jego

- 目 標：① 医療面接での基本英語表現を使うことができる
② 英語による症例プレゼンテーションを行うことができる
③ 診療録で用いる基本英語表現を理解できる

方 略：（12月5日（水）Ⅲ，Ⅳ時限…第三講義室）：

- ① 講義
② 演習

評 価：医学英語OSCE（共用試験OSCEとは異なる）

5 年 次

模擬患者に対する英語での医療面接，症例プレゼンテーション，診療録作成演習（医学英語ワークショップ，選択）

■医学英語ワークショップ（選択）

担当教員：押味貴之，E.H.Jego

- 目 標：① 医療面接での基本英語表現を使うことができる
② 英語による症例プレゼンテーションを行うことができる
③ 診療録で用いる基本英語表現を理解できる

方 略：（4コマ，講師3名，9月1日（土）…第三講義室）：

- ① 講義
② 演習

評 価：医学英語OSCE（共用試験OSCEとは異なる，この評価が留学資格の参考とされる）

備 考：日々の臨床実習において，Up To Date等の医学英語情報を多用するクリニカル・クラークシップを实践すること

6 年 次

患者に対する英語での医療面接，身体診察，症例プレゼンテーション等（海外大学におけるクラークシップ，選択）

■クリニカル・クラークシップ（海外大学におけるクラーク・シップ）（選択）

目 標：海外大学でのクリニカル・クラークシップを实践できる

評 価：実施大学における指導医評価（6年次の本学における評価に反映される）

1 年次スケジュール

| | 4月2日(月) | 4月3日(火) | 4月4日(水) | 4月5日(木) | 4月6日(金) | 4月9日(月) | 4月10日(火) | 4月11日(水) | 4月12日(木) | 4月13日(金) |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------------|----------|----------|
| I | | | | | | | | 導入TUT (情報) | | |
| II | | | | | | | | 導入TUT (情報) | | |
| III | | | | | | | | I P E (救急) | | |
| IV | | | | | | | | I P E (救急) | | |
| V | | | | | | | | I P E (救急) | | |

| | 4月16日(月) | 4月17日(火) | 4月18日(水) | 4月19日(木) | 4月20日(金) | 4月23日(月) | 4月24日(火) | 4月25日(水) | 4月26日(木) | 4月27日(金) |
|-----|----------|----------|-----------------|----------|----------|----------|----------|---------------|----------|----------|
| I | | | 導入TUT | | | | | 導入TUT (情報) | | |
| II | | | 導入TUT | | | | | 導入TUT (情報) | | |
| III | | | 導入TUT | | | | | I P E | | |
| IV | | | 導入TUT | | | | | I P E | | |
| V | | | IPE(救急) 5～6限 | | | | | | | |

| | 4月30日(月) | 5月1日(火) | 5月2日(水) | 5月3日(木) | 5月4日(金) | 5月7日(月) | 5月8日(火) | 5月9日(水) | 5月10日(木) | 5月11日(金) |
|-----|----------|---------|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|
| I | 振替休日 | | 導入TUT (図書館) | 憲法記念日 | みどりの日 | | | 導入TUT | | |
| II | | | 導入TUT (図書館) | | | | | 導入TUT | | |
| III | | | I P E | | | | | I P E | | |
| IV | | | I P E | | | | | I P E | | |
| V | | | | | | | | | | |

| | 5月14日(月) | 5月15日(火) | 5月16日(水) | 5月17日(木) | 5月18日(金) | 5月21日(月) | 5月22日(火) | 5月23日(水) | 5月24日(木) | 5月25日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | 導入TUT | | | | | 導入TUT | | |
| II | | | 導入TUT | | | | | 導入TUT | | |
| III | | | I P E | | | | | I P E | | |
| IV | | | I P E | | | | | I P E | | |
| V | | | | | | | | I P E | | |

| | 5月28日(月) | 5月29日(火) | 5月30日(水) | 5月31日(木) | 6月1日(金) | 6月4日(月) | 6月5日(火) | 6月6日(水) | 6月7日(木) | 6月8日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|---------|---------|---------|-----------------|---------|---------|
| I | | | 導入TUT | | | | | スカラシップ ガイダンス | | |
| II | | | 導入TUT | | | | | スカラシップ ガイダンス | | |
| III | | | I P E | | | | | I P E | | |
| IV | | | I P E | | | | | I P E | | |
| V | | | I P E | | | | | | | |

| | 6月11日(月) | 6月12日(火) | 6月13日(水) | 6月14日(木) | 6月15日(金) | 6月18日(月) | 6月19日(火) | 6月20日(水) | 6月21日(木) | 6月22日(金) |
|-----|----------|----------|----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | 医学英語 (6年一貫) | | | | | | | |
| II | | | 医学英語 (6年一貫) | | | | | | | |
| III | | | I P E | | | | | I P E | | |
| IV | | | I P E | | | | | I P E | | |
| V | | | | | | | | | | |

| | 6月25日(月) | 6月26日(火) | 6月27日(水) | 6月28日(木) | 6月29日(金) |
|-----|----------|----------|--------------|----------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | B 肝 (西千葉) | | |
| III | | | B 肝 (西千葉) | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 7月2日(月) | 7月3日(火) | 7月4日(水) | 7月5日(木) | 7月6日(金) |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 7月9日(月) | 7月10日(火) | 7月11日(水) | 7月12日(木) | 7月13日(金) |
|-----|---------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 7月16日(月) | 7月17日(火) | 7月18日(水) | 7月19日(木) | 7月20日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | 海の日 | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 7月23日(月) | 7月24日(火) | 7月25日(水) | 7月26日(木) | 7月27日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 7月30日(月) | 7月31日(火) | 8月1日(水) | 8月2日(木) | 8月3日(金) |
|-----|----------|----------|---------|---------|---------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 8月6日(月) | 8月7日(火) | 8月8日(水) | 8月9日(木) | 8月10日(金) |
|-----|---------|---------|---------|---------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 8月13日(月) | 8月14日(火) | 8月15日(水) | 8月16日(木) | 8月17日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 8月20日(月) | 8月21日(火) | 8月22日(水) | 8月23日(木) | 8月24日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 8月27日(月) | 8月28日(火) | 8月29日(水) | 8月30日(木) | 8月31日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 9月3日(月) | 9月4日(火) | 9月5日(水) | 9月6日(木) | 9月7日(金) |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 9月10日(月) | 9月11日(火) | 9月12日(水) | 9月13日(木) | 9月14日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 9月17日(月) | 9月18日(火) | 9月19日(水) | 9月20日(木) | 9月21日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | 敬老の日 | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 9月24日(月) | 9月25日(火) | 9月26日(水) | 9月27日(木) | 9月28日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 10月1日(月) | 10月2日(火) | 10月3日(水) | 10月4日(木) | 10月5日(金) |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | |
| V | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ |

| | 10月8日(月) | 10月9日(火) | 10月10日(水) | 10月11日(木) | 10月12日(金) | |
|-----|----------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| I | 体育の日 | | | | | |
| II | | | | | | |
| III | | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | | |
| V | | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ |

| | 10月15日(月) | 10月16日(火) | 10月17日(水) | 10月18日(木) | 10月19日(金) |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | |
| V | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ |

| | 10月22日(月) | 10月23日(火) | 10月24日(水) | 10月25日(木) | 10月26日(金) |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | |
| V | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ |

| | 10月29日(月) | 10月30日(火) | 10月31日(水) | 11月1日(木) | 11月2日(金) |
|-----|-------------|-------------|--------------|----------|----------|
| I | | | | 大学祭準備 | 大学祭準備 |
| II | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | |
| V | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | | |

| | 11月5日(月) | 11月6日(火) | 11月7日(水) | 11月8日(木) | 11月9日(金) | |
|-----|----------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| I | 大学祭片付 | | | | | |
| II | | | | | | |
| III | | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | | |
| V | | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ |

| | 11月12日(月) | 11月13日(火) | 11月14日(水) | 11月15日(木) | 11月16日(金) |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | |
| V | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ |

| | 11月19日(月) | 11月20日(火) | 11月21日(水) | 11月22日(木) | 11月23日(金) |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-----------|
| I | | | | | 勤労感謝 日 |
| II | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | |
| V | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | |

| | 11月26日(月) | 11月27日(火) | 11月28日(水) | 11月29日(木) | 11月30日(金) |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | |
| V | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ |

| | 12月3日(月) | 12月4日(火) | 12月5日(水) | 12月6日(木) | 12月7日(金) |
|-----|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | |
| V | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ | スカラ- シップ |

| | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 12月10日(月) | 12月11日(火) | 12月12日(水) | 12月13日(木) | 12月14日(金) | 12月17日(月) | 12月18日(火) | 12月19日(水) | 12月20日(木) | 12月21日(金) |
| I | | | | | | | | | | |
| II | | | | | | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | | | | 情報処理 (亥鼻) | | |
| IV | | | | | | | | | | |
| V | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ |

H 2 5

| | | | | | | | | | | |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|---------|---------|
| | 12月24日(月) | 12月25日(火) | 12月26日(水) | 12月27日(木) | 12月28日(金) | 12月31日(月) | 1月1日(火) | 1月2日(水) | 1月3日(木) | 1月4日(金) |
| I | 振替休日 | | | | | | 元 日 | | | |
| II | | | | | | | | | | |
| III | | | | | | | | | | |
| IV | | | | | | | | | | |
| V | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 1月7日(月) | 1月8日(火) | 1月9日(水) | 1月10日(木) | 1月11日(金) | 1月14日(月) | 1月15日(火) | 1月16日(水) | 1月17日(木) | 1月18日(金) |
| I | | | | | | 成人の日 | | | | センター試験 前日 |
| II | | | | | | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | | | 情報処理 (亥鼻) | | | |
| IV | | | | | | | | | | |
| V | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------|--------------|--------------|
| | 1月21日(月) | 1月22日(火) | 1月23日(水) | 1月24日(木) | 1月25日(金) | 1月28日(月) | 1月29日(火) | 1月30日(水) | 1月31日(木) | 2月1日(金) |
| I | | | | | | | | | | |
| II | | | | | | | | | | |
| III | | | 情報処理 (亥鼻) | | | | | | | |
| IV | | | | | | | | | | |
| V | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ |

| | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|--------------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | 2月4日(月) | 2月5日(火) | 2月6日(水) | 2月7日(木) | 2月8日(金) | 2月11日(月) | 2月12日(火) | 2月13日(水) | 2月14日(木) | 2月15日(金) |
| I | | | | | | 建国記念日 | | | | |
| II | | | | | | | | | | |
| III | | | | | | | | | | |
| IV | | | | | | | | | | |
| V | スカラ シ ッ プ | スカラ シ ッ プ | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|----------|----------|----------|----------|------------|----------|----------|----------|----------|---------|
| | 2月18日(月) | 2月19日(火) | 2月20日(水) | 2月21日(木) | 2月22日(金) | 2月25日(月) | 2月26日(火) | 2月27日(水) | 2月28日(木) | 3月1日(金) |
| I | | | | | 前期日程 前日 | 前期日程 | 前期日程 | | | |
| II | | | | | | | | | | |
| III | | | | | | | | | | |
| IV | | | | | | | | | | |
| V | | | | | | | | | | |

| | 3月4日(月) | 3月5日(火) | 3月6日(水) | 3月7日(木) | 3月8日(金) |
|-----|---------|---------|---------|---------|---------|
| I | | | | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 3月11日(月) | 3月12日(火) | 3月13日(水) | 3月14日(木) | 3月15日(金) |
|--|------------|----------|----------|----------|----------|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | 後期日程 前日 | 後期日程 | 後期日程 | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

| | 3月18日(月) | 3月19日(火) | 3月20日(水) | 3月21日(木) | 3月22日(金) |
|-----|----------|----------|----------|----------|----------|
| I | | | 春分の日 | | |
| II | | | | | |
| III | | | | | |
| IV | | | | | |
| V | | | | | |

| | 3月25日(月) | 3月26日(火) | 3月27日(水) | 3月28日(木) | 3月29日(金) |
|--|----------|----------|----------|----------|----------|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |